

コラム シジミ

貝塚が語る食卓の今昔

穴道湖は、中海・境水道を経て日本海につながる海水と淡水が混じった汽水湖で、塩分が海水の10分の1ほどに保たれている。全国でも大変珍しい湖です。このため穴道湖は、汽水に棲むヤマトシジミやワカサギ、シラウオなどをはじめ、海産魚のラスキ、淡水魚のコイなど、さまざまな魚介類の宝



穴道湖の古地形 (約5000年前)
穴道湖周辺は、ほぼ現在の地形になっていた。「神門水海」の名残りが今の神西湖。斐伊川は日本海に流れていた。

庫となっています。とくにシジミの生産は、全国の36%を占め、島根の名産の一つです。
約5000年前の縄文時代には、斐伊川の土砂がかなり堆積して東西に大きな水域を作っていました(地図を参照)。このように豊かな水に恵まれた自然環境を背景に、古代の島根の人びとも、私たちと同様、穴道湖の旬の味を楽しんでいたはず。



各時代の貝塚は語る
「こんなに食べていた!」

西川津遺跡は、松江市西川津町にある縄文時代からの遺跡です。大量の木製品が出土し、この地における農耕文化を明らかにするうえで貴重な遺跡ですが、ここからヤマトシジミも多く見つかりました。西川津の弥生人も穴道湖の幸を味わい、農作業をこいそいとしたでしょう。
上長浜貝塚は、出雲市西園町の砂丘地の一角にあり、現在は採砂地になっています。弥生時代から中世にかけて生活が営まれた遺跡ですが、古代から中世にかけてきた貝塚から、ヤマトシジミを中心とする大量の貝類が発見されました。奈良時代に編纂された『出雲国風土記』の中に書かれた「神門水海」で、漁が行われていたと考えられます。



現在も穴道湖岸の各地には、シジミの捨て場が見られる。(松江市西浜佐陀町)



上長浜貝塚の貝層



西川津遺跡の貝層

考古学最前線
シジミの「日輪」を読む
〜生業の季節性を知る〜

「日輪」とは、シジミやアサリの殻に見られるもので、一日の成長分が線になって現れたものです。水温の高い夏では成長が速いため一本一本の間隔が広くなり、冬は反対に狭くなるのが確かめられています。これは、ちょうど木の「年輪」と似ています。
日輪のもっとも密な部分を厳寒期の二月十五日と仮定して、顕微鏡を使って線の数を数え、そのシジミがいつ採られたものなのかを調べます。「日輪」で、「縄文人はいつシジミ捕りをしたのか」といった、生業の季節性がわかるのです。



セタシジミの成長線を観察する
写真提供：滋賀県教育委員会・財 滋賀県文化財保護協会



貝の日輪：上は夏、下は冬(×100)

シジミのサイズを調べる
〜食糧事情を知る〜

見つかったシジミを大きさの順に並べていくと、どんな大きさのシジミが多く捕られていたのかわかります。
縄文時代には、琵琶湖で「一・六〜二・八センチ、佐太講武で「一・八〜二・八センチ」のものも多く捕られ、今よりかなり大きなシジミを食べていたと言えそうです。環境も良く人口も少なかったために、小さなシジミは捕る必要がなかったといえる当時の食糧事情がわかります。



出土したシジミを、大きさに従って並べる
(写真は、鹿島町立歴史民俗資料館での作業)

コラム

島根県で発見された縄文遺跡

縄文遺跡の多くは開発に伴って調査されることが多く、鹿島町と匹見町で発見されたもの以外にも、島根県では多数の縄文遺跡が発見されています。ここでは県内で発見された主な遺跡と、現在でも出土品が展示されている施設を紹介しします。

西郷町 宮尾遺跡
松江市 タテチョウ遺跡 発掘現場)
松江市 後谷遺跡
大社町 菱根遺跡
仁摩町 坂瀬遺跡
邑智町 滝原遺跡
三刀屋町 宮田遺跡
仁多町 下鴨倉遺跡
安来市 島田黒谷遺跡
石見町 ドンデ遺跡
頓原町 板屋川遺跡
益田市 安富王子台遺跡
江津市 波子遺跡 (深鉢)
瑞穂町 堀田上遺跡 (石鏃)
(深鉢の底)
(石鏃)

縄文時代の資料が
展示されている施設

- 津和野町郷土館 (津和野町森村)
- 出雲文化伝承館 (出雲市浜町)
- 埋蔵文化財調査センター (松江市打出町)
- 風土記の丘資料館 (松江市大庭町)
- 鹿島町立歴史民俗資料館 (鹿島町名分)
- 石見町立中央公民館資料館 (石見町矢上)
- 匹見町埋蔵文化財調査室 (匹見町匹見)
- 江津市公民館 (江津市波子町)
- 隠岐郷土館 (五箇村郡)
- 瑞穂町郷土館 (瑞穂町下竜谷)

その他の施設
鹿島町立歴史民俗資料館 (鹿島町名分)
石見町立中央公民館資料館 (石見町矢上)
匹見町埋蔵文化財調査室 (匹見町匹見)
江津市公民館 (江津市波子町)
隠岐郷土館 (五箇村郡)